
会社名 三光産業株式会社（7922）

説明内容 2013年3月期決算

説明要旨

- I. 三光産業のご紹介（初めてご覧になる方へ）
- II. 2013年3月期決算概要
- III. 今後の展開、2014年3月期業績予想

I. 三光産業のご紹介

◎事業目的及び沿革

当社は接着剤付きラベル・ステッカー・ネームプレート等の特殊印刷製品の企画ならびに製造販売を事業としております。

設立当初は、家電製品や自動車、オートバイ等に使用されるラベル・ステッカーの販売商社でありましたが、日本経済が大量生産時代に入り、安価な材料に対する安定供給のニーズが高まりだしたこともあり、昭和 42 年に方南工場、57 年に川越工場、60 年に大阪工場を設立してまいりました。主に、白物家電や自動車向けラベル・ステッカーの製造を行ってまいりましたが、機械や AV 機器関係へ用途を広げる中で、オーディオ用カセット、ビデオテープ、CD、DVD といったソフト関係へ展開し、国内の事業基盤を固めてまいりました。一方、顧客の海外展開に歩調を合わせ、昭和 63 年にマレーシア工場を、平成 13 年に香港に子会社光華産業有限公司を設立いたしました。また平成 19 年 2 月に同社の子会社として、深圳市に燦光電子(深圳)有限公司を設立いたしました。

◎当社製品の特徴

表示・取扱いラベル、CAUTION ラベルといった単純なラベルからスタートした後、FAX やコピー機のタッチパネル、テレビ・ビデオ等の表示銘板等の応用製品へ展開してまいりました。現在では携帯電話機、デジタルカメラ等のデジタル機器向け外構部品や付属機器にまで製品範囲を拡大しております。

製品取扱い点数は約 4 万点、1 日の取扱い品目は 2,000 点と多く、顧客の生産計画の変更やデュータイムの短縮に対応できるように得意先ラインに直接納入する体制を構築しております。

特殊印刷分野で、シール印刷、オフセット印刷、シルク印刷と多様な印刷方式と加工を総合的に扱えることが特徴であります。

また、粘着剤やインクを扱うため環境問題には、特に注意を払っております。このため、ISO14000 の環境基準に準拠した製品作りを行っており、材料メーカーやインクメーカーと一体で環境問題に取り組んでおります。

◎経営の基本方針

当社グループはあらゆる印刷・加工技術を駆使して、装飾性の豊かさを追求することを社会的使命とし、このため素材と印刷のコンビネーションの極大値を実現する技術を蓄積すると同時に、地球環境問題を直視した経営を目標としてまいります。

上記の基本方針を実現するために、次の諸点を経営行動の指針として掲げております。

1. お客様と共に研究・開発に努め技術の蓄積を目指す。
2. 品質保証体制を確立し、多品種少量型の受注にも対応できる様生産設備の充実を目指す。
3. 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す。
4. 組織の効率化を追求する。

これからも環境の変化にスピーディーに対応して、お得意先からの信頼を更に高め、企業価値の最大化を目指してまいります。

◎当期のトピックス

2012 年 11 月 一部国内工場の再編を実施し、不採算部門の撤退・縮小を実施。

Ⅱ.2013年3月期決算概要

◎ 損益計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	12/3 期		13/3 期		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額
売上高	8,463	100.0	10,877	100.0	2,413
AV 機器関連	(2,286)	(27.0)	(1,817)	(16.7)	(△468)
OA 機器関連	(2,958)	(34.9)	(5,785)	(53.2)	(2,827)
その他電気機器関連	(1,863)	(22.0)	(1,886)	(17.3)	(23)
輸送用機器関連	(641)	(7.6)	(604)	(5.6)	(△36)
その他	(715)	(8.4)	(782)	(7.2)	(67)
売上総利益	1,436	17.0	1,712	15.7	276
営業利益又は営業損失(△)	△271	△3.2	57	0.5	328
経常利益又は経常損失(△)	△204	△2.4	151	1.4	356
当期純利益又は当期純損失(△)	△476	△5.6	△200	△1.8	276

2013年3月期の業績に関しましては、前期と比べ増収となり、営業利益、経常利益は黒字に転換を果たしましたが、希望退職者への割増退職金や減損損失による特別損失の計上等により、最終赤字の結果となりました。

○ 売上高に関しましては、国内大手メーカーの減産や海外への生産移転の影響をうけましたが、タッチパネル関連の受注が好調に推移し、OA機器関連業種の売上増が大きく貢献したことで、売上高は10,877百万円（前期比128.5%）と増加いたしました。

- ・AV機器関連は、日本国内においては取引先の減産や海外への生産移管が進み、シール・ラベル等の国内の受注量が減少したため、売上高1,817百万円（前期比79.5%）と減少いたしました。
- ・OA機器関連は、タッチパネル関連の受注が好調に推移し、売上高5,785百万円（前期比195.6%）と大幅に増加いたしました。
- ・その他電気機器関連においては、国内での受注が減少したものの、中国での受注が増加し、売上高1,886百万円（前期比101.3%）と堅調に推移いたしました。
- ・輸送用機器関連は取引先の生産調整により受注量が減少し、売上高は604百万円（前期比94.3%）と減少いたしました。
- ・その他の業種は、主としてアミューズメント関連の受注増加により、売上高782百万円（前期比109.4%）と増加いたしました。

○ 売上総利益は、1,712百万円（前期比119.2%）となり、売上高の増加により276百万円増加したものの、拡大したタッチパネルの利益率が相対的に低いため、粗利率は15.7%（前期比1.3ポイント低下）となりました。

- 営業利益に関しましては、売上総利益の増加に加え、コスト削減を強力に推し進め、販管費を減少させたことにより、営業利益は 57 百万円（前期は 271 百万円の営業損失）となりました。

- 営業外では、為替差益が 47 百万円（前期 4 百万円）と増加したほか、受取利息、受取配当金等の収入により営業外収支は改善し、経常利益は 151 百万円（前期は 204 百万円の経常損失）となりました。

- 特別損失および税金費用については、希望退職者に対する割増退職金 147 百万円、減損損失 130 百万円（一部国内工場の固定資産について実施）、法人税、事業税等 40 百万円の計上により、当期純損失は 200 百万円（前期は 476 百万円の当期純損失）となりました。

◎ 貸借対照表の概要（連結）

（単位：百万円）

	12/3 期	13/3 期	増減額
流動資産	(6,883)	(6,421)	(△462)
現金及び預金	2,784	2,480	△303
売上債権	2,845	2,866	20
棚卸資産	1,056	852	△203
その他流動資産	198	221	23
固定資産	(4,305)	(4,050)	(△255)
資産合計	(11,188)	(10,471)	(△717)
流動負債	(2,309)	(1,681)	(△627)
買入債務	1,845	1,330	△515
その他流動負債	463	351	△112
固定負債	(538)	(461)	(△76)
退職給付引当金	421	398	△23
その他固定負債	116	63	△52
負債合計	(2,847)	(2,143)	(△704)
株主資本	(8,626)	(8,382)	(△243)
その他の包括利益累計額	(△509)	(△300)	(209)
少数株主持分	(223)	(245)	(21)
純資産合計	(8,340)	(8,327)	(△13)
負債・純資産合計	(11,188)	(10,471)	(△717)

2013年3月期末における財政状態は次のとおりであります。

- 当期末における流動資産の残高は6,421百万円（前年同期末 6,883百万円）となり、462百万円減少いたしました。これは、主に商品及び製品等のたな卸資産の減少203百万円、割増退職金の支払等により、現金及び預金が303百万円減少したことによるものであります。
- 当期末における固定資産の残高は4,050百万円（前年同期末 4,305百万円）となり、255百万円減少いたしました。これは、主に有形固定資産が減損損失、減価償却費等の計上により134百万円減少したほか、長期定期預金の減少100百万円によるものであります。
- 当期末における流動負債の残高は1,681百万円（前年同期末 2,309百万円）となり、627百万円減少いたしました。これは、主に支払手形及び買掛金の減少515百万円のほか短期借入金の返済39百万円等によるものであります。
- 当期末における純資産の残高は8,327百万円（前年同期末 8,340百万円）となり、13百万円減少いたしました。これは、評価・換算差額の増加によりその他包括利益累計額は209百万円増加いたしました。当期純損失の計上200百万円及び剰余金の配当43百万円により利益剰余金が243百万円減少したこと等によるものであります。

なお、自己株式の期末残高は、1,185,700株、1,013百万円であります。

自己株式の用途については、今後の事業戦略、資金需要に備え、適切に対応していく所存であります。

◎ キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	12/3 期	13/3 期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4	△300	△304
投資活動によるキャッシュ・フロー	100	39	61
財務活動によるキャッシュ・フロー	△56	△85	△28
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13	81	95
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	34	△264	△298
現金及び現金同等物の期首残高	2,799	2,833	34
現金及び現金同等物の期末残高	2,833	2,569	△264

当会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末に比べ264百万円減少し、当会計期間末には2,569百万円となりました。

当会計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により使用した資金は300百万円（前年同期は4百万円の資金の獲得）となりました。主な増加要因は、減損損失130百万円、減価償却費219百万円、売上債権の減少額111百万円、たな卸資産の減少額244百万円であります。主な減少要因は、税金等調整前当期純損失193百万円、仕入債務の減少額666百万円、割増退職金の支払額147百万円であります。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果獲得した資金は39百万円（同61百万円減）となりました。主な増加要因は、定期預金の払戻による収入127百万円であり、主な減少要因は有形固定資産の取得による支出122百万円であります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により使用した資金は85百万円（同28百万円増）となりました。主な増加要因は短期借入れによる収入116百万円であり、主な減少要因は短期借入金の返済による支出156百万円及び親会社による配当金の支払が43百万円であります。

◎ 生産拠点（連結）

	印刷方式	生産実績(百万円)		建物面積㎡ (従業員数)	13/3 期 投資額(百万円)
		12/3 期	13/3 期		
方南工場	シール主体	358	312	1,211 (15)	—
千曲川工場	輪転機主体	286	229	2,406 (10)	27
川越工場	オフセット主体	616	634	4,578 (29)	10
大阪工場	シール・シルク主体	436	334	948 (15)	1
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	410	391	2,986 (149)	4
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	1040	1,244	2,200 (305)	4
三光プリンティング	シール主体	185	214	611 (21)	—
合計		3,331	3,358		46

○ 印刷方式

シール印刷は、色数が少ない、寸法が小さい、数量が少ないラベル関係の印刷が中心となります。シール印刷は方南工場を中核工場とし、千曲川工場、マレーシア工場、中国深圳工場等に大型機を設置しております。

シルク印刷は、テレビ、ビデオ、HDD レコーダー等の表示部等の印刷をしております。

オフセット印刷は、シール印刷よりも寸法、ロット、色数が大きいラベル関係の印刷を行っております。

○ 生産実績

2013 年 3 月期の自社工場生産額は、総生産額 3,358 百万円で売上高に対する生産比率は 30.9%でありました。

○ 投資額

投資額につきましては当期グループ全体で 119 百万円であります。主なものは協力会社に貸与する機械装置 37 百万円、千曲川の機械設備更新 27 百万円、中国深圳の建物付属設備 4 百万円であります。

Ⅲ.今後の展開・2014年3月期業績予想

◎ 今後の展開

[短期トレンド]

当社グループを取り巻く経営環境は、国内においては、得意先メーカーの海外生産シフトによる国内受注の減少に加え、中国、マレーシアを中心とする海外拠点においても、現地ローカルメーカーとの競合による受注単価の低下等、引き続き厳しい状況で推移するものと思われま

す。
このような状況のもと、2014年3月期においては、一般シール・ラベルの受注減少の影響をカバーすべく新規分野のタッチパネル関連製品の受注増を目指し、積極的な営業展開を行ってまいります。

また、得意先メーカーの海外生産シフトによる一般シール・ラベルの国内受注の減少を、中国、マレーシアの現地法人を中心に、とりこぼしのない様、積極的な営業展開を行い国内受注の落ち込みをカバーしてまいります。

更に、得意先メーカーからのコストダウン要請に対応するため、自社・外注、国内・海外を問わず、コストダウン活動を継続してまいります。このため、昨年秋に一部日本国内の製造工場の統廃合を実施し、不採算部門の撤退・縮小を実施いたしましたが、今後も必要に応じて生産体制を集約化する等、一段と経営効率重視の会社運営を目指して収益の拡大を図ってまいります。

[長期トレンド]

当社グループがメインとする家電業界は、製品のライフサイクルが短期化すると共に、価格低下のスピードが早まっております。また、部材の海外現地調達シフトによる国内市場の空洞化が進行しております。

この様な状況に対応する為、次の事項を基本戦略としております。

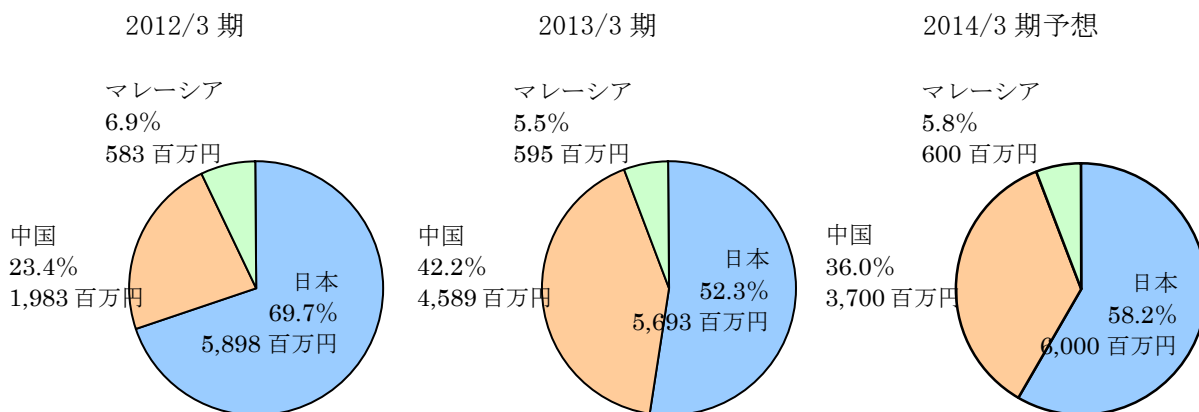
○中国・ASEAN地域への展開

○タッチパネル関連部材の取扱いの拡大

○国内新市場の開拓

1. 中国・ASEAN地域への展開

○地域別売上



(1) 中国展開

中国展開については、これまで日系家電メーカーを中心に一般シール、ラベル製品を中心に事業展開を行ってまいりましたが、これに加え、携帯電話機・スマートフォン向けアクリルパネル、ガラスパネル等取扱い品目を増加させ受注の増加を目指してまいります。

また、拡大する中国市場に対応するため、日系家電メーカーをターゲットとして、本年2月に蘇州営業所を開設し、中国華東地区の受注拡大を目指してまいります。

(2) ASEAN地域の展開

今後大きな需要が見込まれるASEAN地域については、既存のマレーシア現地法人の営業力の強化、設備投資による生産能力の拡大を図り、ASEAN地域への展開を図ってまいります。

2. タッチパネル関連部材の取扱いの拡大

- ・スマートフォン向け、フィルム、ガラスパネル、樹脂パネルの他、家電向け外観部品など手掛けておりますが、今後は扱ひ品目の多様化と顧客層の拡大を図ってまいります。
- ・技術面においては、ガラス加工、蒸着、成型、スタンピング等の技術が必要ですので、専門の外注先の組織化を進めてまいります。
- ・成型加工自体は個別対応を要するので、ユーザー毎のニーズにあった外注先を確保しつつ、付加価値向上のため一部内製化を図ってまいります。



2014年3月期においては、

- ・昨年度にあったスマートフォン向けのガラス加工品の大型案件は得意先メーカーの生産終了に伴い終息いたしましたが、これに代わる受注案件として、日本国内向け及びグローバルスマートフォン、カーナビ、デジタルカメラ向け等のフィルム、アクリル樹脂加工品、ガラス加工品の受注拡大を目指し、営業活動を積極的に行い受注の拡大を目指してまいります。また、これらタッチパネル関連製品については、2億円～3億円/月規模の売上寄与を見込んでおります。

3. 国内新市場の開拓

- ・国内需要が見込めるその他の業種のうち、医療、アミューズメント、玩具景品等の分野については、受注方式を維持しつつ、当社オリジナル企画機能も組み込んで付加価値向上を目指してまいります。

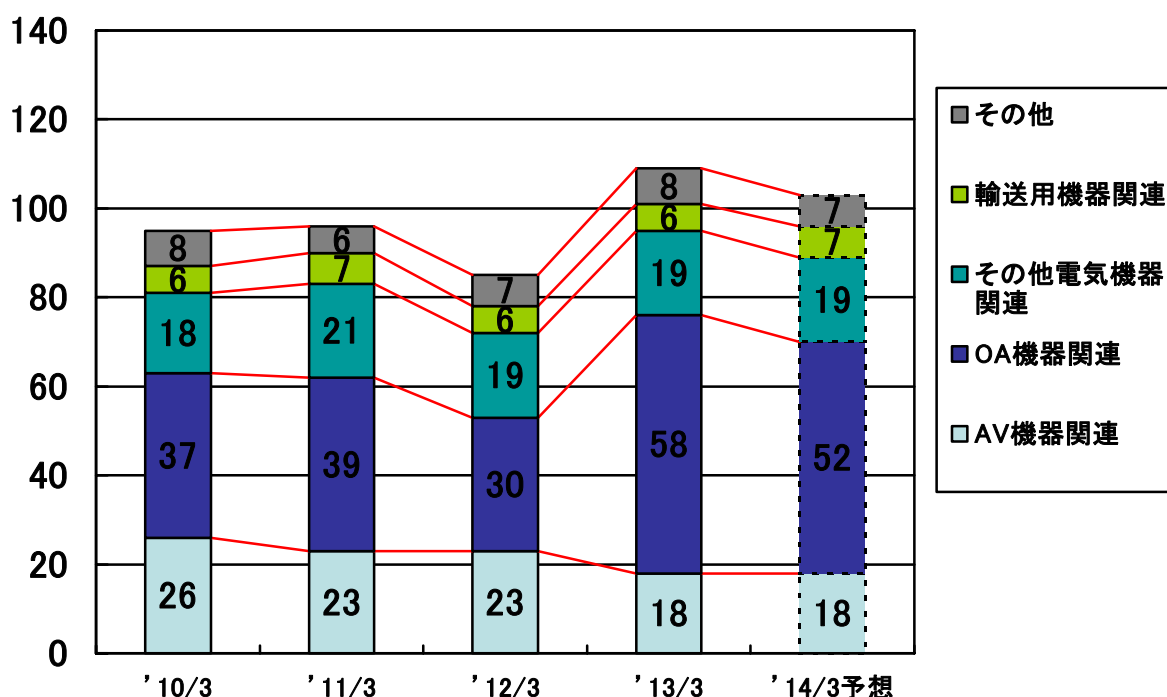


- ・2013年3月期において、医療分野につきましては医療機器メーカー、専門商社等から継続案件として受注を獲得いたしました。
- ・従来の非接触ICカード用の「きせかえシート」に加え、3Dレンチキュラー等バラエティグッズとして商品強化に取り組んでいるものの、現状、受注は伸び悩んでおりますので、引き続き営業活動を強化して拡販に取り組んでまいります。
- ・新たな取組みとして、マイクロ・ドットを使用した偽造防止シール（印刷を施した0.3mm～0.5mmの金属片をシール印刷物に付着させたもの）を開発し、一部試作段階を終え、今後拡販に取り組んでまいります。

◎ 2014年3月期の業績予想について（連結）

業種別売上高の推移（連結・通期）

（単位：億円）



当社グループの今期の取組みといたしましては、既述の長期経営戦略を基本としつつ、加えてローコスト体制の確立により、一段と経営効率重視の会社運営を目指してまいります。

海外展開におきましては、中国において、燦光電子（深圳）有限公司を中国における製造拠点として生産能力の強化と技術力の向上を図り、新設の蘇州営業所を加え、受注の拡大と収益の拡大を目指してまいります。また、ASEAN地域についても、既存のマレーシア現地法人を中心に受注拡大を目指してまいります。

国内市場においては、今後とも国内電機メーカーの海外生産シフトは続き市場の縮小が予想されますが、当面ガラス加工品・タッチパネル関連製品を収益の柱とし、この分野へ注力することで収益の落ち込みをカバーしてまいります。また、受注規模に応じた効率的な生産体制を目指し、必要に応じ国内工場の再編を実施してまいります。

次期の業績見通しにつきましては、連結売上高 10,300 百万円、経常利益 200 百万円、当期純利益 100 百万円を予想しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

以上